

奉祝皇紀二千六百年

福 島 義 孝

久方の光かがよふ天地に民一億の歡聲^{こゝろ}涌きあがる

大東亞興るれ秋に盟主大日本今こそ祝へ皇紀二千六百年

一億のみ民舉りて壽^はぎまつる佳き日は明けぬ青雲遠く

にほどりは霜をふみつつ高鳴きぬ寒ささびしき曉の庭

青雲の遠き山嶺に雪冴ゆる今朝をすがしく國旗掲げぬ

千五百秋瑞穂の國のみ民われ大き式典に會ふぞ尊き

日出づる國さきはふ國に今日を生くる吾が感激ぞきはまりにける

虔しくうから集ひて式典の放送聴きぬ日向座敷に

黄菊白菊瓶に匂へる部屋ぬちに兒らも坐りてラヂオ聴きをり

國こぞり戦ふ秋ぞつつましく佳き日祝はむ幼き子ろよ

北白川宮永久王殿下を悼みまつりて

大神の御末かしこき御身かも大陸の野に玉と散りましぬ

胡沙の風むせぶ悲秋の大陸に玉葉の御身散りましぬはや

陸軍參謀若き殿下が颯爽と兵みそなはず英姿をろがむ

みいくさの第一線に立たしける雄々しき英姿ましまさぬかも

大君の御楯と立たせし御三代のかしこき武勳ぞ民草の胸に